

新連載

自動車リサイクル業界を
担うホープ(5)

名前：山本 泳 (やまもと えい) (29歳)

所属：株式会社アンドーカーパーツ

特技：洗車

MBTI：擁護者型(ポジティブで困難が起きても前向きに対応方法を検討し、他者への気配りも忘れないため、周りからの信頼も厚く頼られるタイプ)

— 仕事で誰にも負けない部分

外装の小物や電装系の部品をお客様へ早めに連絡・提案すること

— この業界の魅力を一言で

解体する車の部品が別の車でまた使用されること

— 将来の業界への期待

電気自動車のリサイクルパーツが今以上に流通すること

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。



INDEX

【新連載】自動車リサイクル業界を担うホープ / 巻頭言 ——— P.1

【特集】資源回収インセンティブ制度を紐解くPart 4 ——— P.2

JAERA 会議報告 ——— P.3

JAMA 方式一括作動処理ツールの仕様変更について / JVRより新規講演会の参加者募集 ——— P.4

7月新車販売・使用済自動車発生台数 ——— P.5

鉄スクラップ最新情報 ——— P.6

行事予定・お知らせ / 編集後記 ——— P.7

巻頭言

広報部会

伊地知 志郎

九州と沖縄の人口が減少しているという新聞記事を見ました。2024年1月に総務省から発表された人口動態および世帯数調査によると、九州沖縄8県での人口総計は1,414万人と前年比0.54%の減少となりました。沖縄県は2年ぶりの増加、福岡県は大阪市に次いで全国2位の増加率であったようですが、一方で、鹿児島県は離島含め159万人、鹿児島市でも59万人と遂に60万人を切ってしまいました。

熊本県では台湾積体回路製造(TSMC)の進出で、交通渋滞や人手不足も発生しています。人口減少や少子高齢化、物価高の道は避けて通れませんが、地域密着型を目指して後継者、事業継承にも早めに取り組んでいかないといけないなど危機感を感じました。自動車リサイクル業は静脈産業として必要不可欠ですので、今までと違う考え方や視点を持ち、資源を循環するスキームなど新しいことに挑戦していきたいと思います。

01 ▶ 【特集】資源回収インセンティブ制度を紐解く (Part4)

コンソーシアムとは何か、どんなパターンが想定されるか

資源回収インセンティブ制度（本制度）について正しく理解をする特集の第4弾! 前回は本制度のキープレイヤーは中小規模の解体事業者ということと、いかに多くの方がコンソーシアムを組んで参画してくれるかが重要なポイントであることを説明しました。今回はそのコンソーシアムとは何か、例えばどんなパターンが想定されるかについて解説を行っていきます。

【コンソーシアムとは】

コンソーシアムとは、元々「共通の目的を持って協力し合う仲間」という意味で、ビジネス用語では「共通の目標のために企業や組織が作る共同体」を指す言葉です。実際に国内でも様々な企業や団体がコンソーシアムを組んで、ビジネスに取り組むケースも多くなっています。

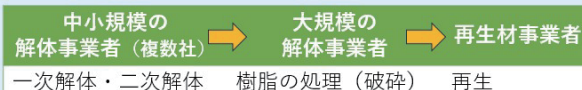
【本制度のコンソーシアムとは】

では、本制度でのコンソーシアムとはどんな形かを考えてみます。使用済自動車（ELV）由来の樹脂を、回収から樹脂の再生材事業者に引渡すまでに、

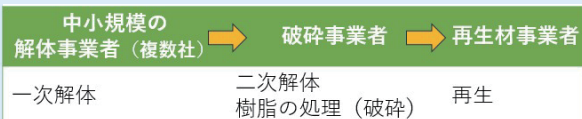
- ①樹脂パーツの回収（一次解体）
- ②樹脂パーツから異物を除去（二次解体）
- ③樹脂の処理
(例：運搬効率を上げるため破碎機による破碎や洗浄など)
- ④運搬

と、あくまでも一例ですが、今思いっただけでも4つの作業が必要となります。①の一次解体は解体事業者が担うとしても、②の二次解体や、③の処理（専用の設備が必要となる）など、中小の解体事業者がこういった作業を全て担うことは極めて難しく、引いては制度への参画の障壁になります。そういった状況を解決するため、各作業を役割分担したコンソーシアムを組むということが期待されます。地域性や立地条件などを加味して様々なパターンが想定されますが、図1のように大規模解体業者や破碎事業者と組むパターンが一例として考えられます。

■大規模解体業者に集積するコンソーシアム



■破碎事業者に集積するコンソーシアム



※他にも様々なコンソーシアムが考えられる。

図 1

【コンソーシアムを組むことで…】

図1のように一次解体のみ対応可能な事業者や、設備を持たない事業者などの単独で対応が難しい事業者でも、コンソーシアムを組むことで本制度への参画が容易となります。

また、多くの解体事業者が集まることで、今後需要が高まると考えられる再生樹脂（Vol.183の4頁参照）を安定的に一定量集めることが可能となり、加えて、コストのかかる運搬に関しても、ELVの引取時など、何かの輸送のついでを活用する“ついで便”を利用することで、より効率的に行うことが可能となります。

次号では、一次解体や二次解体などの作業についてフォーカスしていきます。



02

▶ JAERA 会議報告



FOCUS

各ブロックの会議報告と共に、今回は中部北陸ブロック会議にフォーカスしてお伝えします！

| 中部・北陸ブロック会議

—8月21日(水) 石川県輪島市等—

金森ブロック長にバトンタッチしてから初のブロック会議となった今回は、今年の1月1日に発生した能登半島地震で甚大な被害を受けた輪島朝市の被災自動車の視察を主な目的として開催された。

なお、輪島朝市の被災自動車は行政の依頼を受けて、石川県支部の光山支部長を筆頭にした支部メンバー等により処理を実施することになっている。

当日は、中部・北陸ブロック各県の支部長、石川県支部の会員、本部より奥野事務局長に加え、被災自動車の処理にあたって大きなお力添えをいただいている、自動車リサイクル促進センター再資源化支援部の小久保部長にもご参加いただいた。

金沢駅よりマイクロバスをレンタルして輪島へ向かう車中と視察後に訪れた石川県支部の(有)勝木自動車解体様の会議室をお借りして会議を実施し、中部・北陸ブロックの事業計画、小久保様から輪島朝市の被災自動車処理にかかるこれまでの経緯報告等が行われた。

輪島朝市の被災自動車の視察では、予想を超えた惨状を目の当たりにして言葉を失う方が多かったが、一方で現状を確認できたことは大きな意味があるとの声が多く聞か



輪島朝市にて 被災した自動車



処理を待つ被災自動車が並ぶ

| 九州ブロック会議

—7月20日(土) 福岡県福岡市—

九州ブロック会議の各支部長が集まり、本部の活動内容について情報共有、意見交換、質疑応答が行われた。また、事業者が電気自動車等の整備(解体の業務)に労働者を就かせる際に、電気による危険を防止するため実施することが義務付けられている「電気自動車等の整備業務に係る特別教育」について、情報交換が行われた。

| 沖縄ブロック会議

—8月7日(水) WEB会議—

29社の参加があった今回の会議では、資源回収インセンティブ制度に焦点が当たった。制度自体の理解を深めるための制度の概要や設計などの説明が改めて行われ、2026年4月の開始が見込まれている中で、引き続き情報を共有していくとした。また、解体業許可の更新を迎える方が多い中、更新に際する相談や情報交換なども行われ閉会となった。

| 近畿ブロック会議

—8月23日(金) 兵庫県姫路市—

本部から阿部専務理事が出席され、オブザーバー・メディア含む15名の参加者が一堂に会した。会議では、現在機構が取り組んでいる事業等の本部報告と各支部の活動報告・情報交換が活発に行われた。また、資源回収インセンティブ制度に関する説明も行われ、制度の考え方やJAERAとして取り組んでいる実証事業などに質問が及んだ。



会議の様子

03 ▶ JAMA方式一括作動処理ツールの仕様変更について

自動車再資源化協力機構（自再協）より

2004年より豊通リサイクルにて販売しております現行JAMA方式ツールは、部品調達が不可となり、継続生産が出来ないため、現在在庫限りで販売終了となります。

しかしながら、2040年頃まではJAMA方式対応の使用済自動車が多く発生する予測から、耐久性の向上等仕様を変更し、同じ機能（JAMA方式）のツールを近日中に販売開始予定です。販売開始時期・販売店については別途ご案内しますので、しばらくお待ちください。

■最新の情報は画像をクリックしたリンク先（自再協HP）をご覧ください（車上作動処理タブ>関連ツール）

<主な変更点>



奥行
279mm
(+25mm)

幅
128mm

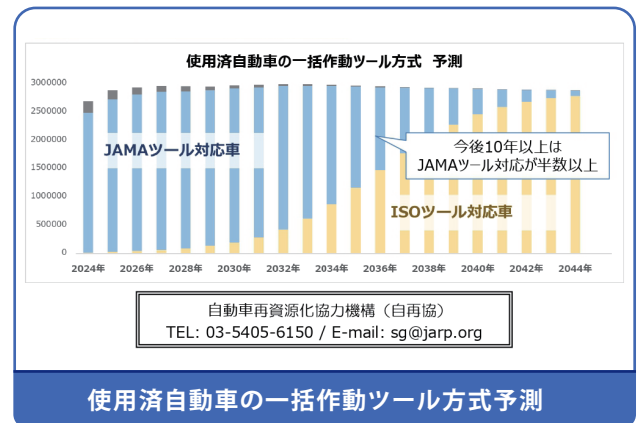
高さ
162mm
(+50mm)

- ・本体サイズ変更
- ・耐久性向上
錆に強いステンレス素材・設計変更
- ・耐水・耐油性向上
水・油が浸潤しにくい設計となっています
- ・金額
通常小売価格：228,000円（税抜）予定

※ISO方式対応車台の一括作動はできません。
（機能はこれまでと同様です）

※同梱ケーブルについても仕様変更されます。
（メインと車室内ケーブルの長さ比率を変更）

新ツールの主な変更点



■日本自動車リサイクル機構（JAERA）より

上記の「新JAMA方式一括作動ツール」について、新たに当機構も販売窓口となることになりました！

JAERA会員の皆様におかれましては特別価格でのご提供を予定しております。詳細は近日中にニュースレターやメルマガ等でご案内いたしますので、今しばらくお待ちください。

04 ▶ JVR（日本自動車リサイクル研究所）より 新規講演会の参加者募集について

JVR「まちかどの講演会」を開催

この度、JVRでは新しい志向の講演会として「まちかどの講演会」を開催することとしました。講師の話題提供に対し参加者との意見交換を行いながら次の活動につながるテーマを探すという主旨の講演会です。参加者募集チラシをご確認の上、申込をお願いいたします。

※開催日程：年3回／1回2時間

（2024年9月25日（水）、2025年1月予定、2025年5月予定）

※参加費用：20,000円＋税／人（年3回分）

参加者募集チラシはこちら ▶

<https://jvr.tokyo/images/20240809.pdf>

【申込締切日：2024年9月18日（水）JVR事務局宛て】

【申込・お問い合わせ先】

JVR事務局（E-mail：info@jvr.tokyo Tel：080-7424-2547）宛にご連絡下さい

05

2024年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業
7月出荷状況と今期累計

上段：7月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス20	プリウス30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィールダー	クラウンHV GWS204	クラウンHV AWS210
30	5	68	0	0	51	1	2	2
54	65	282	2	1	246	2	5	5

SAI/レクサス HS250H	日産デットロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタHV	プリウス50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品A~C	合計
0	1	2	1	0	0	0	20	153
2	4	6	3	5	0	0	64	692

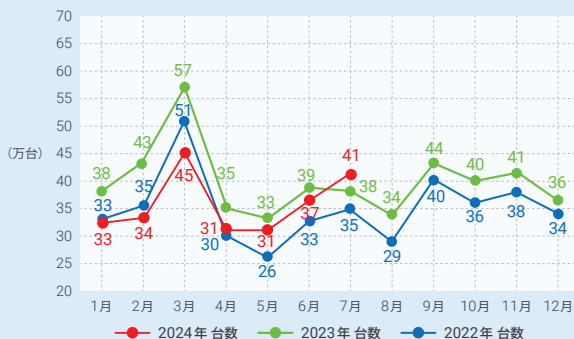
2023年度の結果はこちら ▶

<https://elv.or.jp/index.php?itemid=1906>

06

7月新車販売・使用済自動車発生台数

2024年7月度 新車販売台数 405,175台 (前年同月比106.9%)

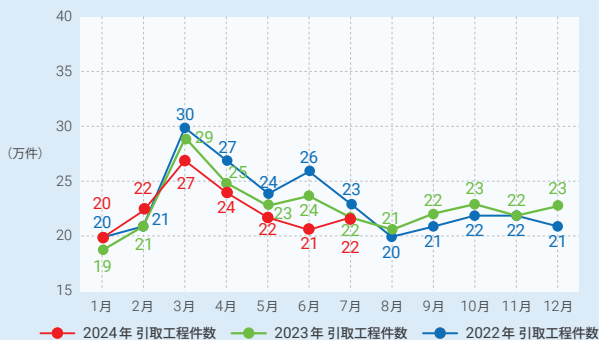


新車販売の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

過去の新車販売台数推移		
年累計	台数	前年比 (%)
2024年 (7月まで)	2,532,665	89.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2010年	4,598,615	88.5

2024年7月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



使用済自動車引取件数の月別推移 (2024年 2023年 2022年)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

引取件数	
7月	221,905件 (前年同月比101.1%)
フロン回収工程	
7月	200,708件 (前年同月比101.8%)
解体工程	
7月	229,486件 (前年同月比101.5%)

06 ▶ 鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

8月第4週（23日）の鉄スクラップ動向



8月23日の国内スクラップ炉前実勢価格（中心値）

		H2	気配
関東	北関東	46,000～47,000	値下がり
	南関東	46,000～47,000	値下がり
	浜値	44,500～46,000	値下がり
名古屋		45,500～47,500	値下がり
関西	大阪	47,500～49,000	値下がり
	姫路	46,500～48,000	値下がり

国内、500～1,000円の続落 海外安・円高・内需減など弱材料多く

国内市場の鉄スクラップ市況が続落する展開となった。需要家筋の間に8月22日、購入価格を1トあたり500～1,000円どころ値下げする動きが広がり、国内全域で続落した。

海外市場の鉄スクラップ相場が小幅ながら続落する展開となっていることに加え、いったん円安となった為替相場が円高傾向に振れていることも、国内相場続落の要因。また、国内電炉の夏季炉休が続いている一方、市中発生簿で需給に目立った緩和感はないものの、引き締まる状況にはなく、鉄スクラップ相場にとって弱材料が多いのが現状だ。

東京製鉄は8月22日、拠点別に500～1,000円の追加値下げを実施。8月6日以来の値下げ改定となった。製鋼4工場の特級価格を46,500円、その他を45,500円とした。同社は8月22日時点で、田原工場と岡山工場が集中炉休を実施中。8月26日からは宇都宮工場が炉休期間に入る。需要減への対応も値下げ要因だ。

この動きを受けて、他の需要家筋にも値下げ改定の動きが広がることとなった。8月22日時点の値下げを見送った筋もあるが、近く下げ揃う見通しだ。

東日本 全域で1,000円どころ値下げ広がる

東日本市場全域で8月22日、鉄スクラップ相場が1,000円どころ続落した。7月中旬から下げ相場が続いており、合計の値下がり幅は、北海道市場で4,500円どころ、その他で6,000円どころ。東京製鉄が22日からの全拠点の鉄スクラップ購入価格の値下げ改定を発表すると、他の需要家筋もこの動きに対応した。関東地区のH2炉前実勢価格は46,000～47,000円中心。H2浜値は44,500～45,000円中心、高値45,500～46,000円見当。

東海 販路狭く値下げ対応が広がる可能性高い

名古屋地区の市況は、弱含み気配にある。域内では共英製鋼・名古屋1社が同値幅で8月22日から値下げした。その他の電炉は即日の同調下げを見送ったものの、域内では田原工場をはじめ3社が炉休中で、荷止めや荷受け制限が広がるなど販路は狭い。「需要家筋が価格を据え置く理由も少ない」（問屋筋）といった声が聞かれるなど、他メーカーにも値下げ対応が広がる可能性が高い。H2炉前実勢価格は45,500～47,500円中心。

西日本 全面安の展開、先安気配拭えず

西日本地域の鉄スクラップ市況は全面安。海外相場や為替要因をはじめ弱気材料が目立っており、先安気配は払拭されない。盆期間を挟んで2週ぶりの下落展開となったが、下記のため市中発生は少なく、荷動きに勢いはない。しかし再び円高基調へと転じているため、為替要因での下落圧力を受けた状況が続いている。H2炉前実勢価格は、大阪地区が47,500～48,500円中心、一部高値49,000円。姫路地区が46,500～48,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、8月23日午前時点のもの)

07 お知らせ

未来部会主催 解体現場見学会のお知らせ

未来部会主催、株式会社エコアールの解体現場見学会の開催が決まりました。新型コロナウイルスの影響で数年ぶりの開催となりますが、JAERA会員の方ならどなたでも参加可能です。普段はなかなか目にするのでできない最新の取り組みなど直接見学できるチャンスです。最前線の技術や実践を間近で体験することで、新たな知見を得る貴重な機会になります。

見学会の詳細については、**近日中にご案内の予定です!**よろしくをお願いします。



株式会社エコアール

編集後記

ある雑誌の編集員がその編集後記の中で、嬉しかった体験談を書いていました。「取材は最終的に編集会議で決めるのだが、基本的には地域や業種が偏らないように注意し、訪問の日程も当然取材先に合わせる。ただ今回、取材である地方都市に行ったときに、現地のイベントと重なっていて、取材終了後にそのイベント会場をゆっくり見て回る事ができた。取材のついでに祭りやイベント、旬の名物を堪能できるタイミングは今までなかったの、思いがけないご褒美をいただいた。」ということでした。

私がこの編集後記文を書いている今、世界中が沸きあがっていたパリオリンピックが閉会しました。オリンピック選手の勝ち負けに一喜一憂しながら、眠い目を擦り夜更かしたのは私だけではないでしょう。実力だけでなく運も味方にした選手だけが手にすることができるメダル。彼らにとっては素晴らしいご褒美です。それが日本の選手であったら見ている私達はあたかも自分にご褒美をもらったような気持ちで、まさに幸甚の至りです。

このニュースレターを制作している広報部会のメンバーにもご褒美があります。そのご褒美とは取りも直さず、読者の皆さんの声援やニュースレターのダウンロード数に他なりません。私達もご褒美を「おねだり」してもいいでしょうか？

広報部会長 田村 幸男

9 月の主な行事予定

- 5日(木) | 第2回理事会 (WEB) / 第6回広報部会 (対面)
- 10日(火) | J-FAR (エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり) 定例会 (WEB)
- 11日(水) | 第1回ブロック長会議 (対面)
- 12日(木) | 第4回未来部会 (WEB)
- 13日(金) | 2024年度自動車リサイクル士更新講習会 申込締切日
- 19日(木) | J-FAR (資源回収インセンティブ実装事業) 定例会 (WEB)
- 27日(金) | 東北ブロック地域団体合同交流会 (対面)

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

